



## 一級建築士事務所 アトリエM アーキテクツ

耐力面材MOISS TMなら  
不燃材として使え、壁体内結露も  
調湿で防ぎ、さらに工期とコストの  
圧縮にもつながります

テレビ番組「大改造!! 劇的ビフォーアフター」の“匠”としてお馴染みの建築家・松永 務氏。  
施工現場で大工さんとも連携を密にしてきた氏は、MOISSをどうとらえ、  
どう活かしてきたのでしょうか。MOISS活用法を伺いました。



松永務氏の自邸兼アトリエ。すべての構造材・仕上材を、直輸入した米松集成材を使用  
(竣工1996年)

## 「端材を産業廃棄物にせず活用できる MOISSに決めて、正解でした」

一級建築士事務所アトリエMアーキテクツの代表取締役 建築家・  
松永 務氏。テレビ番組「大改造!! 劇的ビフォーアフター」(朝日放送)  
の“匠”としても活躍される氏の自邸兼アトリエ(静岡市)は、木の温もり  
に包まれています。

「住まいとは生活の“器”です。器が主張しすぎると、主である料理が  
活きません。建て主の住まい感は人それぞれです。住まい感に沿って、  
住まう家族とともにづくりあげていくことが重要です」

住まいづくりの哲学をこう語る松永氏が、MOISSを初めて採用  
したのは2005年のこと。「大改造!! 劇的ビフォーアフター」で、店舗



併用住宅のリフォーム依頼が届いたときです。

「物件は静岡市の商店街(防火地域)にある、うなぎの寝床風の町家  
でした。限られた予算の中で、『さて、どうするか』と思案していたとき、『そうだMOISSだ!』と思いました」と  
当時を振り返ります。「調湿効果があるし、不燃材で、しかもそのまま壁として使える。その頃はほとんど  
知られていなかったMOISSを、壁だけでなく天井にも貼りました。初めての使用ですが、好評でした」

以降、松永氏は同番組の“匠”として活躍。次に“満を持して”MOISSを番組で採用したのが、2012年八丈島の  
物件です。八丈島はスコールが多く、湿気が高い。MOISSの高い調湿効果を期待し採用を決めましたが、じつは  
もうひとつ大きな理由がありました。

「施工で生じる端材の問題です。他の不燃材料だと、産業廃棄物になるので廃棄のため再び島から運び出さなければならず、搬出コストが余分に  
かかります。しかし、MOISSなら端材を袋に入れて、床下の調湿材や消臭剤として活用したり、他にも粉碎したMOISSを肥料としても  
利用でき、土に還せます。しかも、内装MOISSは素地張りとすればその後のクロス貼りは不要なので、工期も短縮できます。こうして  
MOISSと杉板のコラボレーションによるリフォームは、大きな反響を呼び、『2012匠が選ぶビフォーアフター大賞  
(空間アイディア部門第1位)』をいただきました」

離島で産業廃棄物を出したくないとの想いは、環境問題に配慮すれば、島だけでなく、地球全体へと広げたい  
願いでもあります。サステナブルな建材としてのMOISSが、改めて注目されています。

“島の匠”松永氏は、数多くの離島物件を手がけています。波照間島(沖縄県)の古民家もその1つです。人が住む  
日本最南端の島は、雨がとても多いところ。このときも、改裝できる壁には内装MOISSを採用。家の中心の仏間に  
囲む壁は構造壁とらえて耐力面材MOISS TMを使い、かつ仏間に上の屋根裏には余った端材をすべて碎いて調  
湿袋に入れて置きファンを回し、対流する空気の調湿処理に役立てています。



松永氏が手がけた、人が住む日本最南端の島波照間島(沖縄県)の古民家のリフォーム。  
雨が多い島では湿気対策が課題。壁は調湿効果のあるMOISSを採用。仮間上部の  
編んだような壁もMOISS。6mmのMOISSはこのように曲げることもできるので、表現  
の幅が広がる。また、仮壇周りの凹型壁にはMOISS TMを張り、構造コアとしている。





MOISSを薦める人

### 松永 務氏

1958年 広島市生まれ。

1981年 日本大学理工学部建築学科卒業。(株)一色建築設計事務所入社。林野庁補助事業・北米における大規模木造構築物の調査員として渡米。全米各地の木造建築の調査に従事。

2000年 一级建築士事務所 アトリエMアーキテクツ 設立

2005年 朝日放送「大改造!!劇的ビフォーアフター」第100回記念番組に出演。以降、同番組の“匠”として度々出演。諸セミナーや学校の講師も務めている。

松永氏は、耐力面材MOISS TMの有効性を強調されます。

「外壁材をガルバリウム鋼板で仕上げるとき、下地を不燃材にしなければなりません。耐力面材の上から石膏ボードなど不燃材を張る必要がありますが、**耐力面材MOISS TM**なら**不燃材**なので直接ガルバリウムを張れ、更には、湿気を室外に出し、壁体内結露も抑制でき、一挙両得です。また、下地を張る手間も不要となり、コストダウンにもつながります」

調湿対策だけでなく、環境、工期、コストコントロールにも配慮する**MOISS**。“匠”にとって、内壁材**MOISS**と耐力面材**MOISS TM**の用途はさまざまな可能性を秘めているようです。



「2012 匠が選ぶビフォーアフター大賞(空間アイディア部門)」受賞の盾

## 松永氏が「大改造!! 劇的ビフォーアフター」で**MOISS**、**MOISS TM**を使用した例

### ●静岡市の店舗兼住宅(2005年)



(左)松永氏が「大改造!! 劇的ビフォーアフター」で“匠”として初めて手がけた店舗兼住宅の店舗外観

(中)古民家の古材に、漆喰と**MOISS**を組み合わせた店内の壁

(右)小さな中庭がある住居の壁も**MOISS**と古材補強の組み合わせ

### ●八丈島の木造平屋建て民家(2012年)



スコールの多い島では、湿気対策が重要。**MOISS**を採用したので、端材を島外に搬出する余分なコストを削り、有効活用できて一石二鳥

(左、中)ダイニングとサニタリーには調湿対策で**MOISS**を採用。水掛かりのため**MOISS**用撥水材を塗布  
(右)広間天井の下がり壁には**MOISS**の特性を活かし、R加工も採用

### ●波照間島(沖縄県八重山諸島)の古民家(2016年)



(左)56年前に建てられた、沖縄の伝統的な琉球赤瓦の古民家を見事にリформ  
(右)仏壇上部の壁にも調湿効果の**MOISS**、周囲の壁には構造用**MOISS TM**を耐震壁として使用

発行元

三菱商事建材株式会社

moiss-info@moiss.jp

moiss.jp